メディアの利用と痩身理想の内在化との関係

浦　上　涼　子*　　小　島　弥　生**　　沢　宮　容　子***

本研究では，体型に関するメディアの情報を受けた個人が，その影響から痩身理想をどの程度内在化しているかを評価するSociocultural Attitudes Towards Appearance Questionnaire-3 Revised（SATAQ-3R ; Thompson, van den Berg, Keery, Williams, Shroff, Haselhuhn, & Boroughs, 2000）の日本語版を作成し，大学生の痩身理想の内在化とメディア利用頻度との関連性について検討した。研究1では，男女大学生1,054名を対象に調査を実施し，29項目（4下位尺度）の日本語版SATAQ-3Rを作成し，尺度の信頼性と妥当性を確認した。研究2では，男女大学生998名を対象に日本語版SATAQ-3Rとインターネットやテレビ，雑誌といったメディア利用頻度との関連性を調べた結果，男性より女性のほうが，メディアの影響を受けて痩身理想を内在化し，メディア情報を重要だと考え，外見に関するプレッシャーを感じていることが示された。一方でスポーツマン体型への内在化は女性より男性のほうが高いことが示された。また，メディアのうち特にテレビと雑誌が大きく影響を及ぼす可能性が示され，わが国の摂食障害患者の増加を防ぐためにも，学校教育におけるメディアリテラシー教育の重要性が示唆された。

キーワード：メディアの利用，痩身理想の内在化，Sociocultural Attitudes Towards Appearance Questionnaire-3 Revised，メディアリテラシー，男女大学生

問題と目的

今日，テレビや雑誌を見ていて“痩せる”というメッセージに遭遇しないことは，まずありえないといっても過言ではない。メディアによる情報発信は，ボディイメージの歪みを悪化させる重要な役割を担っており（Hogan & Strasburger, 2008），摂食障害の重要な危険因子であるとされている（Thompson & Heinberg, 1999）。フィジーやマレーシアなどの発展途上国でも，テレビが導入されたのち，摂食障害患者の数が明らかに増加しているとの報告がなされている（Becker, Burwell, Gilman, Herzog, & Hamburg, 2002 ; Swami, 2006）。雑誌に関しては，Sypeck, Gray, & Ahrens（2004）が，1959年から1990年までにアメリカで発行されたもっとも有名なファッション雑誌4誌の表紙を取り上げ，1980年代からモデルの体型がスリムになってきたこと，映し出される身体の部分が上半身から全身へと移り変わり，露出の多い服装が増えたことを指摘したうえで，メディアによって理想とされる女性の体型が明らかに細身となっていることを明らかにしている。わが国においても，女子大学生を対象に女性誌の購読習慣と食行動異常との関連を明らかにし，摂食障害につながりかねないメディアの影響力に対する早期予防の観点から，メディアリテラシー教育の必要性を述べた研究（小澤・冨家・宮野・小山・川上・坂野, 2005）が行われている。

しかしながら，メディアにさらされている誰もが摂食障害を発症するわけではない。発症を促す最大の危険因子として注目されているのが,「見た目に関する社会文化的な基準を，自分自身の価値観として取り込むくらいに受け入れること」と定義される，痩身理想の内在化（thin-ideal internalization）である（Durkin & Paxton, 2002 ; Stice & Shaw, 2002 ; Thompson & Stice, 2001）。痩身理想の内在化は，社会文化的影響と体型不満感を媒介すること（Sands & Weadle, 2003）が明らかにされている。さらに，縦断的調査によって，長期的に体型不満感を悪化させる要因であることも明らかにされている（Stice & Bearman, 2001 ; Stice & Whitenton, 2002）。

Heinberg, Thompson, & Stormer（1995）は，メディアからの影響を受けた結果，どれほど痩身理想を内在化したかを評価するために，Sociocultural Attitudes Towards Appearance Questionnaire（SATAQ）という尺度を開発した。その後SATAQは改定が重ねられSATAQ-3改訂版（以下SATAQ-3R）が作成されている（Thompson, van den Berg, Keery, Williams, Shroff, & Haselhuhn, & Boroughs, 2000）。SATAQ-3Rは，(1) 内在化-TV／雑誌（Internalization-TV/Mag : e.g., 私は自分の体型がテレビに出ている人たちのように見えたらいいと思う），(2)

*　東京大学保健・健康推進本部（現：明治学院大学）
**　埼玉学園大学
***　筑波大学

内在化-スポーツマン体型（Internalization-Athlete : e.g., スポーツのスター選手のような体型になりたい），(3) 内在化-比較（Internalization-Comparison : e.g., 雑誌に登場する人々の体型と自分の体型を比べる），(4) 重要性（Importance : e.g., テレビ番組は,ファッションと「魅力的でいること」に関する重要な情報源である），(5) プレッシャー（Pressures : e.g., テレビや雑誌からスリムでなければというプレッシャーを感じたことがある），(6) 意識（Awareness : e.g., 外見の良い人の方がより成功している）という 6 つの下位尺度から構成されており，内的整合性が確認されている（α=.95）。

SATAQ は，アラビア語（Madanat, Hawks, & Brown, 2006），マレー語(Swami, 2009)，ドイツ語(Knauss, Paxton, & Alsaker, 2009)，フランス語（Rousseau, Valls, & Chabrol, 2010)，イタリア語(Stefanile, Matera, Nerini, & Pisani, 2011) など多くの言語に翻訳され，摂食障害患者（Calogero, Davis, & Thompson, 2004）にも適用が試されているなど広く世界的に利用されている。わが国においても SATAQ-3 の日本語版が短縮版かつ測定対象を女子学生に限定した尺度であるが，作成されている（SATAQ- 3JS : 山宮・島井, 2012)。

近年は，男性のボディイメージに対する社会的関心が高まっており，女性だけでなく男性のボディイメージに対する社会文化的影響の役割を検討することが重要であると考えられている（Barlett, Vowels, & Saucier, 2008 ; Cohane & Pope, 2002 ; McCabe & Ricciardelli, 2004 ; Ricciardelli & McCabe, 2004)。しかしながら，男性にとって理想的な体型の内在化と体型不満感の関係は広く検討されていないとの指摘がある（Bearman, Presnell, Martinez, & Stice, 2006)。SATAQ は思春期男子（Smolak, Levine, & Thompson, 2001）や大学生男子（Karazsia & Crowther, 2008)にも適用が試されているが，痩身というよりも筋肉質なボディイメージに焦点を当てたものがほとんどである。Jackson & Chen（2010）は非西洋諸国において男性に対応可能な SATAQ がないと指摘し，思春期男子を対象とした中国語版の SATAQ-3 を作成している。その際，（中国人男性が）筋肉質なボディイメージを理想としているか不明瞭であるという指摘（Yang, Gray, & Pope, 2005）から，質問項目の痩身に関する表現は変更しないまま作成している。

男性が理想とするボディイメージについては，女性との質的な差が薄れてきていることを示す知見も多い。わが国における近年の実態調査では，BMI が平均以下（≦22）である男子大学生の約 40%が痩身願望を持っているとの報告（高橋・川端・山田・宮下・大浦・山田, 2004）がある。また，佐藤・土屋（2010）は，男女高校生の摂食障害傾向を調査し,「痩せていることへの周囲からの圧力」は女子よりも男子の方がより強く意識していることを示し，その背景には理想のボディイメージが従来の男性的な（筋肉質な）身体よりも細身の姿を賛美する文化的背景が存在する可能性を考察している。浦上・小島・沢宮・坂野（2009）は，男子大学生を対象とした痩身願望に至るまでの心理的メカニズムの検討を行い，女子大学生を対象とする痩身願望のメカニズム（馬場・菅原, 2000）と同様に，男子学生においても,「痩せていることのメリット感」が痩身願望を強めることを示している。これらの知見は，男性の理想とするボディイメージが女性と類似の「痩身」になっている可能性を示唆するものである。

近年，男性向け雑誌などでダイエット特集が組まれることが増え，男性に対しても理想のボディイメージがメディアによって示されるようになっていると考えられる。メディアに影響を受け，それらが示す理想の体型を自分の価値観として取り入れる，つまり内在化するプロセスが男性にも存在するのではないかと想定される。浦上・小島・沢宮（2013）は，痩身願望を引き起こすとされる複数の心理的要因（自尊感情, 承認欲求, 雑誌に対する被影響性）から痩身願望に至るまでのプロセスについて男女大学生を比較検討しているが，そのうち男女に共通するプロセスとして，雑誌に対する被影響性が痩身理想の内在化を媒介することで痩身願望に影響するプロセスがあることを明らかにしている。この知見をふまえると，また，今後有効な摂食障害の予防的ないしは治療的介入を検討するためにも，女性だけではなく男性にも対応可能な，痩身理想の内在化やメディアによる影響の度合を測定するツールを作成することは意義のあることだと思われる。

以上をふまえ，本研究では，男女に共通して用いることのできる日本語版 SATAQ-3 R を作成し，その信頼性と妥当性を検討することを第 1 の目的とする。

本研究の第 2 の目的は，メディアの利用頻度と日本語版 SATAQ-3 R との関連性について性差もふまえて検討することである。メディアがあるべき外見を表す強力な社会的ツールとして機能するため，メディアによく接する男女大学生の体型不満感が高まることや問題のある食行動が引き起こされていることが指摘されている（Wright & Pritchard, 2009)。そして，欧米では摂食障害やそのほかの問題行動の予防教育においてメディアリテラシー教育の必要性が求められ（Berel & Irving, 1998)，いくつもの取り組みがなされている（Coughlin & Kalodner, 2006 ; Raich, Portell, & Peláez-

Fernandez, 2010 ; Wilksch, Tiggemann, & Wade, 2006 ; Wilksch & Wade, 2009)。また，摂食障害の予防活動を学校ベースで行うことが効率的かつ効果的であるという指摘もある（Grave, 2003)。

しかし，わが国では食行動の問題におけるメディアからの影響についての検討がいまだ不十分であり（前川, 2005)，摂食障害に関する教育や予防活動も不十分である（生野, 2001)。そこで本研究では，インターネットやテレビ，雑誌といったメディアとの利用頻度と日本語版 SATAQ-3 R の関連性を調査し，メディアとの接触の多寡と痩身理想の内在化の程度との関連を明らかにし，摂食障害の予防教育としてのメディアリテラシー教育について考察する。

研　究　1

研究 1 では，日本語版 SATAQ-3 R を作成し，その信頼性と妥当性を確認することを目的とする。

日本語版 SATAQ-3 R の妥当性に関して，まずは摂食障害の中核的な心理的特徴ともいえる痩身願望と体型不満感との関連を検討する。先行研究(Thompson, van den Berg, Roehrig, Guarda, & Heinberg, 2004）では，痩身理想の内在化と痩身願望との間に強い正の相関，体型不満感との間にやや強い正の相関が示されている。したがって，日本語版 SATAQ-3 R でも，同様の正の相関を示すことを想定する。

また，Knauss et al.（2009） による SATAQ ドイツ語版の作成において，SATAQ の得点と自己の見た目を変えるために体重や食事に向ける関心の程度との間に正の相関が示され，Stefanile et al.（2011）による SATAQ イタリア語版においては，SATAQ の得点と体型や外見に関するこだわりの強さとの間に正の相関が報告されている。これらの先行研究から，日本語版 SATAQ-3 R と体重を管理することや外見へのこだわりとの間に正の相関を示すことが予想される。

加えて本研究では，痩身理想の内在化やメディアの影響に関連する要因として，外見スキーマとボディチェッキングを取り上げる。外見スキーマとは，外見が自己の人生にとって重要な意味をもち，生活のさまざまな側面に影響を及ぼしていると考える信念のことを指し，体型不満感やマスメディアによって伝えられる理想的なボディイメージを内在化しやすい傾向との関連が指摘されている（Cash, Melnyk, & Hrabosky, 2004)。ボディチェッキングとは自らの身体の様子をさまざまな方法で確認することであり，体型不満感と密接な関連をもつ信念かつ体型および体重，食事への過剰なとらわれを反映している（安保・須賀・根建, 2012）と考えられている。したがって，日本語版 SATAQ-3 R と外見スキーマおよびボディチェッキングとの間に正の関連があるのではないかと想定される。

以上をふまえ，妥当性の検証に際して以下のような仮説を設定した。日本語版 SATAQ-3 R は，(a) 痩身願望と強い正の関連を有する，(b) 体型不満感とやや強い正の相関を有する，(c) 自己の見た目を変えようと，体重や食事に向ける関心の強さと正の関連を有する，(d) 体重や外見に関するこだわりの強さ，かつ自分の人生に重要で日常生活にも影響を及ぼしていると考えている程度と正の関連を示す，(e) 外見の変化，維持のためには自己の体型を確認することが必要であると考えている程度と正の関連を示す。

方　法

調査参加者と調査手続き　複数の 4 年制大学で授業担当者の許可を得て，調査への参加協力者を募集した。調査への協力は強制ではなく任意であること，単位の取得や成績評価に一切関係なく，協力しないことによる不利益は何ら存在しないこと，無記名のため個人が特定されるということはないということ，途中で回答の拒否ができることをフェイスシートならびに口頭で説明した。協力意思を示した大学生に対してのみ匿名で質問紙への回答を求めた。回答済みの質問紙はその場で回収した。全体で 1,054 人（うち男性 490 人, 女性 562 人, 性別無回答 2 人）の大学生から参加協力が得られた。

調査参加者を 4 つのサンプルに分け，調査を実施した。これは，日本語版 SATAQ-3 R の作成に多数のデータを必要とすると同時に，尺度の信頼性および妥当性の検討にあたって複数の心理尺度への回答を求める必要があったためである。サンプルごとに回答を求めた心理尺度を一部変えることで，1 人あたりの回答の負担を減らすことを試みた。

サンプルごとの調査時期

サンプル 1　2012 年 10 月下旬～11 月中旬にかけて，2 カ所の 4 年制大学で質問紙調査を実施し，計 173 人（うち男性 101 人, 女性 72 人, 平均年齢 20.54±4.31 歳）の参加協力が得られた。

サンプル 2　2012 年 11 月中旬に，4 年制大学 1 カ所で質問紙調査を実施し，267 人(うち男性 135 人,女性 132 人, 平均年齢 19.28±1.68 歳）の参加協力が得られた。

サンプル 3　2012 年 12 月中旬に，4 年制大学 1 カ所の 2 つの講義において質問紙調査を実施し，計 294 人（うち男性 136 人, 女性 156 人, 性別無回答 2 人, 年齢が無回答であった者を除いた 291 人の平均年齢 19.27±1.11 歳)の参加協

力が得られた。

サンプル4 2012年11月中旬および12月中旬に，2カ所の4年制大学で2回にわたり質問紙調査を実施した。日本語版SATAQ-3Rの再検査信頼性を検討するため，匿名性を保持した上で調査データを照合させるための6桁の番号の記入を，各回の調査において調査参加者に求めた。1回目の調査では計264人（うち男性88人，女性176人，年齢が無回答であった者を除いた263人の平均年齢20.37±3.90歳）の参加協力が得られた。1回目の調査から4週の間隔を空けて実施した2回目の調査では，計251人（うち男性84人，女性164人，性別無回答3人，年齢が無回答であった者を除いた247人の平均年齢20.62±4.42歳）の参加協力が得られた。2回の調査の両方に回答していた参加者は195人（うち男性58人，女性137人，年齢が無回答であった者を除いた194人の1回目調査時の平均年齢20.30±3.98歳）であった。

質問紙の構成 質問紙は全参加者に共通して尋ねた調査内容（研究2で示す）に続き，サンプルごとに回答を求めた内容の異なる心理尺度を提示する形式で構成していた。

日本語版SATAQ-3R作成のために，原尺度（Thompson et al., 2000）を翻訳した38項目について，「5：あてはまる」〜「1：あてはまらない」の5件法で回答を求めた。翻訳にあたっては，原版の作成者であるThompsonの許可を得た。翻訳を職業とする専門家4人（英語を母国語とする翻訳家の男女各1人，および日本語を母国語とする翻訳家の男女各1人）に依頼し，原版の項目を日本語に翻訳した。次に，これら4人の翻訳家とは別の翻訳家4人（英語を母国語とする翻訳家の男女各1人，および日本語を母国語とする翻訳家の男女各1人）にバックトランスレーションを依頼した。日本語訳とバックトランスレーションの結果をふまえ，心理学を専門とする大学教員2人，および臨床心理士1人が表現の統一などを協議し，最終的な日本語訳を確定した。

続いて，サンプルごとに回答を求めた心理尺度について，妥当性の検討に用いた順に，その内容を述べる。

1）EDI-91（Eating Disorder Inventory-91：志村・堀江・熊野・久保木・末松・坂野，1994）

摂食障害患者の心理的・行動的特徴を評価する尺度であり，本研究では8項目からなる＜やせ願望＞，8項目からなる＜身体不満足度＞の2下位尺度を使用した。これらの質問項目に対して，「6：いつもそう」〜「1：まったくない」までの6件法で，サンプル1とサンプル2の参加者に回答を求めた。これは，仮説の(a)および(b)を検討するために用いた。

2）EAT-26（Eating Attitude Test-26：馬場・坪井，1993）

神経性無食欲症患者に特徴的な摂食態度や食行動などの臨床症状をもとに作成された尺度である。＜摂食制限＞，＜大食と食事支配＞，＜肥満恐怖＞の3下位尺度，26項目からなる。これらの質問項目に対して，「6：常に」〜「1：全くない」までの6件法で，サンプル3とサンプル4（1回目調査と2回目調査の両方）に，それぞれ回答を求めた。これは，仮説の(c)を検討するために用いた。

3）BSQ（Body Shape Questionnaire日本語版：米良・岡・宮田・兒玉・森・玉川・武永・林田・橋本・辻，2011）

体型と外見に対するこだわりの強さ，および太っているという感覚を評価する尺度であり，34項目からなる。これらの質問項目に対して，「6：いつも」〜「1：決してない」までの6件法で，サンプル3の参加者と，サンプル4のうち1回目調査の参加者に，それぞれ回答を求めた。これは，仮説の(d)を検討するために用いた。

4）JASI-R（Japanese version of the revision of the Appearance Schemas Inventory：安保他，2012）

外見スキーマを測定する尺度であり，＜自己評価の特徴＞，＜動機づけの特徴＞の2下位尺度，18項目からなる。これらの質問項目に対して，「5：非常にあてはまる」〜「1：まったくあてはまらない」までの5件法で，サンプル1とサンプル2の参加者に回答を求めた。これは，仮説の(d)を検討するために用いた。

5）日本語版BCCS（Body Checking Cognition Scale：法田・矢澤・根建，2007）

ボディチェッキング（鏡を見る，体重を量るなど，自らの身体の様子をさまざまな方法で確認すること）を行う際に人が持っている歪んだ信念や思考を測定する尺度である。＜安全希求＞因子，＜体重・身体コントロール＞因子，＜気分調整＞因子の3下位尺度，18項目からなる。これらの質問項目に対して，「5：非常にしばしば」〜「1：全くない」までの5件法で，サンプル2の参加者と，サンプル4のうち2回目調査の参加者に，それぞれ回答を求めた。これは，仮説の(e)を検討するために用いた。

このほか，サンプル4の参加者に対しては，本研究の目的とは異なる内容の質問（1日あたりの平均睡眠時間，GHQ-12等の精神的健康に関する質問）への回答も求めたが，本研究では分析に用いなかった。

結果と考察

分析対象者 回答に欠損のあった者と年齢が30歳以上の者を除き，全体で953人が分析対象者となった。

そのうち，サンプル1～サンプル3の分析対象者と，サンプル4の1回目調査の分析対象者，計895人（うち男性404人，女性491人，平均年齢19.63±1.28歳）のデータを用いて，日本語版SATAQ-3Rを作成し，その内的整合性を確認するためにCronbachのα係数を算出した。

サンプル4で2回の調査の両方に有効な回答をしていた171人（うち男性49人，女性122人，平均年齢19.99±1.35歳）のデータを用いて，作成した日本語版SATAQ-3Rの再検査信頼性を検討した。妥当性の検討に用いた分析対象者数と内訳は後述する。

日本語版SATAQ-3Rの作成　項目の選定に際して反応の偏りを防ぐため，天井効果が認められた2項目，床効果が認められた1項目をあらかじめ分析から除外した，残りの35項目について，統計パッケージSPSSver 19.0を用いて探索的因子分析（最尤法，プロマックス回転）を実施した。負荷量の低い項目を除いて因子分析を繰り返した結果，最終的に29項目，4因子構造となった（Table 1）。項目内容から，各因子を第1因子から＜内在化／TV雑誌・比較＞9項目（原版の

Table 1　日本語版SATAQ-3Rの探索的因子分析結果（最尤法・プロマックス回転）

下位尺度および項目	因子負荷量 F1	F2	F3	F4
第1因子　＜内在化／TV雑誌・比較＞（α＝.92）				
E4　雑誌に登場する人々の容姿と自分の容姿を比べる。	.933	.028	-.085	-.136
E2　テレビや映画のスターの容姿と自分の容姿を比べる。	.885	-.092	-.086	.001
E1　テレビや映画のスターの体型と自分の体型を比べる。	.857	-.002	-.029	.054
E3　雑誌に登場する人々の体型と自分の体型を比べる。	.851	-.052	.043	-.092
C2　私は自分の体型が，雑誌に出ているモデルのように見えたらいいと思う。	.697	.091	.012	-.007
C3　私は自分の体型が，映画に出ている人たちのように見えたらいいと思う。	.658	.066	-.003	.120
C1　私は自分の体型が，テレビに出ている人たちのように見えたらいいと思う。	.560	-.057	.290	.025
C4　私はミュージックビデオ（PV）のモデルのような外見になりたいと思う。	.555	.118	.016	.122
C5　テレビに出る人々のように見えるよう努力している。	.524	.071	.036	.089
第2因子　＜情報の重要性＞（α＝.89）				
A1　テレビ番組は，ファッションと「魅力的でいること」に関する重要な情報源である。	-.208	.773	.092	.125
A2　CMは，ファッションと「魅力的でいること」に関する重要な情報源である。	-.010	.756	-.028	.076
A5　雑誌の広告は，ファッションと「魅力的でいること」に関する重要な情報源である。	.054	.729	.040	-.046
A4　雑誌の記事は，ファッションと「魅力的でいること」に関する重要な情報源である。	.178	.720	-.078	-.152
A7　映画は，ファッションと「魅力的でいること」に関する重要な情報源である。	.053	.715	-.045	.088
A9　有名人は，ファッションと「魅力的でいること」に関する重要な情報源である。	.137	.713	-.023	-.107
A8　映画スターは，ファッションと「魅力的でいること」に関する重要な情報源である。	-.006	.657	-.025	.085
A6　雑誌の写真は，ファッションと「魅力的でいること」に関する重要な情報源である。	.046	.634	.057	-.093
A3　ミュージックビデオ（PV）は，ファッションと「魅力的でいること」に関する重要な情報源である。	-.042	.489	.012	.154
第3因子　＜メディアによるプレッシャー＞（α＝.93）				
B5　テレビや雑誌から，ダイエットしなければというプレッシャーを感じたことがある。	-.119	-.058	.984	-.034
B1　テレビや雑誌から，体重をへらさなければというプレッシャーを感じたことがある。	-.019	-.073	.961	.005
B3　テレビや雑誌から，スリムでなければというプレッシャーを感じたことがある。	.139	.027	.764	-.010
B6　テレビや雑誌から，運動しなければというプレッシャーを感じたことがある。	-.098	.086	.728	.054
B7　テレビや雑誌から，外見を変えなければというプレッシャーを感じたことがある。	.206	.062	.620	.017
B4　テレビや雑誌から，完璧な体型でなければというプレッシャーを感じたことがある。	.297	.059	.486	.053
B2　テレビや雑誌から，キレイに見えなければというプレッシャーを感じたことがある。	.374	.073	.451	-.120
第4因子　＜内在化／スポーツマン体型＞（α＝.78）				
D2　スポーツのスター選手のような体型になりたい。	.047	-.057	-.025	.862
D1　雑誌に出ている人のようなスポーツマン体型になりたい。	.222	-.085	-.017	.787
F3　スポーツマン体型の人のほうが服が似合う。	-.136	.166	.000	.519
F6　スポーツマン体型の人は，見た目がいい。	-.085	.153	.056	.459

因子間相関		F1	F2	F3	F4
	F1	-	.640	.691	.155
	F2			.550	.117
	F3				-.038
	F4				-

Note. SATAQ-3R＝Sociocultural Attitudes Towards Appearance Questionnaire-3 Revised; PV＝promotion video

“Internalization-TV/Magazine”と“Internalization-Comparison”に対応），第2因子＜情報の重要性＞9項目（原版の“Information”に対応），第3因子＜メディアによるプレッシャー＞7項目（原版の“Pressures”に対応），第4因子＜内在化／スポーツマン体型＞4項目（原版の“Internalization-Athletes”に“Awareness”の2項目が加わった形）と命名した。なお，因子分析を男女別に実施した場合も，同様の因子構造が確認されており，以上の4因子構造は安定していると考えられる。

日本語版SATAQ-3Rの信頼性の検討　日本語版SATAQ-3R全29項目および各因子の内的整合性を検討するために，Cronbachのα係数を算出した。その結果，全29項目のαの値は.94，各因子のαの値は第1因子から順に.92，.89，.93，.78であった。したがって，尺度全体および各因子は高い内的整合性を有しているといえる。

また，再検査信頼性を検討するために，先述したサンプル4の171人を分析対象者として，2調査間の因子得点ごとにPearsonの積率相関係数を算出した。その結果，第1因子から順にr＝.80，.77，.84，.73となり，日本語版SATAQ-3R得点ではr＝.83となった。したがって，十分に実用に耐えうる相関が確認できたといえる。

日本語版SATAQ-3Rの妥当性の検討　EDI-91，EAT-26，BSQ，JASI-R，BCCSの平均，標準偏差，ならびに本研究の分析データにおけるα係数をTable 2に示した。各尺度ともα係数は十分な値を示していることを確認した。次に，おのおのの尺度と日本語版SATAQ-3R得点および各因子得点とのPearsonの積率相関係数を算出した（Table 2）。

1）EDI-91

分析対象者は，サンプル1とサンプル2から有効回答を得られた384人（うち男性202人，女性182人，平均年齢19.64±1.25歳）であった。EDI-91の＜やせ願望＞と日本語版SATAQ-3Rとの間には，第4因子＜内在化／スポーツマン体型＞を除き，.31～.69（p<.01）と正の相関が認められた。EDI-91の＜身体不満足感＞との間では，.22～.56（p<.01）と正の相関が得られたが，第4因子とはr＝－.16（p<.01）と負の相関が認められた。やせ願望や身体不満足感が強いほど，メディアからのプレッシャーを感じることや痩身理想の内在化が強くなる傾向にあることが示唆された

2）EAT-26

分析対象者は，サンプル3とサンプル4の1回目調査の参加者から有効回答が得られた511人（うち男性202人，女性309人，平均年齢19.62±1.31歳）であった。EAT-26の得点と日本語版SATAQ-3Rとの間には，.12～.52（p<.01）と正の相関が認められた。ダイエットなど，食事をコントロールする度合いが強いと，メディアからのプレッシャーを強く感じることが示された。

Table 2　妥当性検討に用いた尺度の平均（標準変差），α係数および日本語版SATAQ-3Rとの相関係数

	基本統計量			日本語版SATAQ-3Rとの相関係数			
	平均	(*SD*)	α	第1因子 ＜内在化／TV雑誌・比較＞	第2因子 ＜情報の重要性＞	第3因子 ＜メディアによるプレッシャー＞	第4因子 ＜内在化／スポーツマン体型＞
EDI-91	15.69	(11.44)	.92	.45**	.31**	.69**	-.08
やせ願望	5.05	(6.14)	.92	.50**	.35**	.69**	.03
身体不満足感	10.63	(6.48)	.86	.32**	.22**	.56**	-.16**
EAT-26	51.46	(16.86)	.89	.48**	.37**	.52**	.12**
BSQ	82.69	(37.16)	.97	.56**	.41**	.70**	.02
JASI-R	44.02	(8.35)	.86	.59**	.50**	.49**	.01
自己評価の特徴	27.21	(5.61)	.82	.55**	.46**	.50**	.07
動機づけの特徴	16.81	(4.02)	.83	.46**	.39**	.32**	-.09
BCCS	48.40	(13.66)	.91	.50**	.43**	.59**	.12*
安全希求	20.60	(6.21)	.82	.47**	.40**	.52**	.13**
体重・身体コントロール	20.98	(6.97)	.89	.45**	.40**	.59**	.08
気分調整	6.81	(2.66)	.78	.31**	.23**	.28**	.09*

**p<.01，*p<.05

Note. SATAQ-3R＝Sociocultural Attitudes Towards Appearance Questionnaire-3 Revised;
EDI＝Eating Disorder Inventory-91; EAT＝Eating Attitude Test-26; BSQ＝Body Shape Questionnaire;
JASI-R＝Japanese version of the revision of Appearance Schemas Inventory;
BCCS＝Body Checking Cognition Scale

3）BSQ

分析対象者は2）EAT-26と同じであった。BSQの得点と日本語版SATAQ-3Rとの間には，第4因子を除き，.41～.62（p<.01）と正の相関が認められた。体型と外見に対するこだわりや太っているという感覚が高いほど，メディアからのプレッシャーを感じることや痩身理想の内在化が強い傾向にあることが示唆された。

4）JASI-R

分析対象者は1）EDI-91と同じであった。自己評価が外見に基づいている程度を示す下位尺度の＜自己評価の特徴＞と日本語版SATAQ-3Rとの間には，第4因子を除き，.22～.58（p<.01）と正の相関が認められた。また，自己の外見的魅力に労力を費やしている程度を表す下位尺度の＜動機づけの特徴＞との間には，第4因子を除き，.32～.46（p<.01）と正の相関が認められた。外見が自己の人生にとって重要な意味をもち，生活のさまざまな側面に影響を及ぼしているという考えが強いほど，やせを理想化し内在化する傾向は強いことが示唆された。

5）BCCS

分析対象者は，サンプル2とサンプル4の2回目調査の参加者から有効回答が得られた472人（うち男性203人，女性267人，性別無回答2人，無回答者を除く469人の平均年齢は19.70±1.32歳）であった。ボディチェッキング行動は重要であるという信念を表す下位尺度の＜安全希求＞と日本語版SATAQ-3Rとの間には，.12～.52（p<.01，第4因子との相関のみp<.05）と正の相関が認められた。自身の外見コントロールのためにボディチェッキングは有効であると考える信念を表す下位尺度の＜体重・身体コントロール＞と日本語版SATAQ-3Rとの間には，第4因子を除き，.40～.59（p<.01）と正の相関が認められた。自身の感情のコントロールのためにボディチェッキングは有効であると考える信念を表す下位尺度の＜気分調整＞と日本語版SATAQ-3Rとの間には，.09～.31（p<.01，第4因子との相関のみp<.05）と正の相関が認められた。ボディチェッキングが必要であるという信念が強いと，メディアからのプレッシャーを感じることや痩身理想の内在化も強いことが示された。

研　究　2

研究1で作成した日本語版SATAQ-3Rを用いて，インターネットやテレビ，雑誌といったメディアを利用することが，社会文化的な基準として痩身を内在化する程度とどのように関連するかについて検討する。研究2の仮説は，インターネットやテレビ，雑誌などのメディアを利用する頻度が高い人ほど，それらのメディアを通じて痩身が社会文化的な基準であると内在化する程度が強いというものである。さらに，その傾向が男女で異なるか，それとも共通するかについても検討する。

方　法

調査対象者と質問項目　研究2の調査対象者は研究1と同じである。サンプル4の2回目参加者を除く計998人（男性460人，女性536人，性別無回答2人）に対し，調査参加者の性別，年齢とともに1日あたりのおおよそのインターネット利用時間，1日あたりのおおよそのテレビ視聴時間を自由記述で，定期的な雑誌の購読の有無を選択式で尋ねた。

結果と考察

分析対象者　研究1において日本語版SATAQ-3Rの作成に用いた895人（サンプル1～サンプル3と，サンプル4の1回目調査の参加者）が分析対象者となった。ただし，メディア利用頻度に関する3変数（インターネット利用時間，テレビ視聴時間，定期的な雑誌の購読の有無）で数名ずつ無回答者がいたため，それらのデータは分析から除外した（各分析の人数はTable 3に示した）。

性別とメディア利用頻度の分散分析　1日あたりのおおよそのインターネット利用時間と1日あたりのおおよそのテレビ視聴時間については，概数を数値で記入する形で回答を求めたため，一部の回答に範囲による回答（例；1～2時間）がみられた。そこで量的変数（時間）としてではなく質的変数（時間の長い群と短い群）として分析に用いることが妥当だと判断した。回答の度数分布から最頻値を考慮し，インターネット利用時間は2.5時間以下の低群（423人）と3時間以上の高群（457人）の2群に，テレビ視聴時間は1.5時間以下の低群（438人）と2時間以上の高群（440人）の2群に，それぞれ分けることが適切だと判断した。

性別を第1の独立変数，メディア利用頻度の各変数を第2の独立変数とする2要因の分散分析を，日本語版SATAQ-3Rの4因子得点を従属変数に用いて実施した。分析の結果はTable 3にまとめた。

性別（男性・女性）×インターネット利用時間（低群・高群）の分散分析の結果，日本語版SATAQ-3Rの4因子すべてにおいて性別の主効果が1％水準で有意であった。第1因子＜内在化／TV雑誌・比較＞，第2因子＜情報の重要性＞，第3因子＜メディアによるプレッシャー＞については，男性より女性の方が平均得点は高かった（因子順に，男性の平均値は22.74，25.58，15.74で

Table 3 性別，メディアの利用頻度と日本語版 SATAQ-3R の分散分析

独立変数	インターネット利用時間	男性 低群		男性 高群		男性 小計		女性 低群		女性 高群		女性 小計		性別合計 低群		性別合計 高群		性別合計 全体		有意な主効果／交互作用
	n	215		181		396		208		276		484		423		457		880		
従属変数		*平均*	*(SD)*	*平均*	*(SD)*	*平均*	*(SD)*	*平均*	*(SD)*	*平均*	*(SD)*	*平均*	*(SD)*	*平均*	*(SD)*	*平均*	*(SD)*	*平均*	*(SD)*	($df1=1$, $df2=876$)
第1因子	＜内在化／TV 雑誌・比較＞	23.29	(8.42)	22.09	(8.28)	22.74	(8.36)	28.14	(8.28)	29.10	(8.73)	28.69	(8.54)	25.68	(8.69)	26.33	(9.20)	26.01	(8.96)	性別 $F=105.8^{**}$
第2因子	＜情報の重要性＞	25.96	(7.48)	25.12	(7.70)	25.58	(7.58)	30.00	(6.70)	30.13	(7.15)	30.07	(6.95)	27.95	(7.38)	28.15	(7.76)	28.05	(7.58)	性別 $F=83.8^{**}$
第3因子	＜メディアによるプレッシャー＞	15.76	(6.70)	15.72	(6.98)	15.74	(6.82)	23.07	(6.73)	23.59	(7.28)	23.37	(7.05)	19.35	(7.64)	20.47	(8.13)	19.93	(7.91)	性別 $F=256.4^{**}$
第4因子	＜内在化／スポーツマン体型＞	13.12	(3.37)	12.54	(3.74)	12.85	(3.55)	10.13	(2.96)	10.23	(2.97)	10.19	(2.97)	11.65	(3.51)	11.14	(3.48)	11.39	(3.50)	性別 $F=143.3^{**}$
独立変数	テレビ視聴時間	低群		高群		小計		低群		高群		小計		低群		高群		全体		有意な主効果／交互作用
	n	225		168		393		213		272		485		438		440		878		
従属変数		*平均*	*(SD)*	*平均*	*(SD)*	*平均*	*(SD)*	*平均*	*(SD)*	*平均*	*(SD)*	*平均*	*(SD)*	*平均*	*(SD)*	*平均*	*(SD)*	*平均*	*(SD)*	($df1=1$, $df2=874$)
第1因子	＜内在化／TV 雑誌・比較＞	21.92	(8.27)	24.29	(8.49)	22.93	(8.44)	28.40	(8.75)	28.95	(8.40)	28.71	(8.55)	25.07	(9.10)	27.17	(8.73)	26.12	(8.97)	性別 $F=92.3^{**}$ テレビ $F=6.3^{*}$
第2因子	＜情報の重要性＞	24.88	(7.73)	26.80	(7.35)	25.70	(7.62)	29.61	(7.12)	30.53	(6.85)	30.12	(6.98)	27.18	(7.79)	29.11	(7.27)	28.15	(7.59)	性別 $F=72.5^{**}$ テレビ $F=8.2^{**}$
第3因子	＜メディアによるプレッシャー＞	15.16	(6.74)	16.85	(6.85)	15.89	(6.83)	23.52	(7.00)	23.28	(7.14)	23.39	(7.07)	19.23	(8.04)	20.83	(7.69)	20.03	(7.90)	性別 $F=241.2^{**}$ 性別×テレビ $F=4.1^{*}$
第4因子	＜内在化／スポーツマン体型＞	12.44	(3.40)	13.55	(3.54)	12.92	(3.50)	9.97	(2.98)	10.40	(2.94)	10.21	(2.96)	11.24	(3.43)	11.60	(3.53)	11.42	(3.48)	性別 $F=165.6^{**}$ テレビ $F=12.4^{**}$
独立変数	定期的な雑誌購読	なし群		あり群		小計		なし群		あり群		小計		なし群		あり群		全体		有意な主効果／交互作用
	n	269		133		402		320		168		488		589		301		890		
従属変数		*平均*	*(SD)*	*平均*	*(SD)*	*平均*	*(SD)*	*平均*	*(SD)*	*平均*	*(SD)*	*平均*	*(SD)*	*平均*	*(SD)*	*平均*	*(SD)*	*平均*	*(SD)*	($df1=1$, $df2=886$)
第1因子	＜内在化／TV 雑誌・比較＞	22.41	(8.34)	23.85	(8.52)	22.89	(8.42)	27.58	(8.38)	30.86	(8.47)	28.71	(8.55)	25.22	(8.75)	27.76	(9.17)	26.08	(8.97)	性別 $F=103.4^{**}$ 雑誌 $F=15.5^{**}$
第2因子	＜情報の重要性＞	25.07	(7.63)	26.86	(7.42)	25.66	(7.60)	29.03	(6.91)	32.09	(6.62)	30.08	(6.96)	27.22	(7.50)	29.78	(7.44)	28.09	(7.58)	性別 $F=81.1^{**}$ 雑誌 $F=22.6^{**}$
第3因子	＜メディアによるプレッシャー＞	15.54	(7.00)	16.36	(6.44)	15.81	(6.82)	22.65	(7.04)	24.86	(6.86)	23.41	(7.05)	19.40	(7.86)	21.10	(7.89)	19.98	(7.91)	性別 $F=251.5^{**}$ 雑誌 $F=9.5^{**}$
第4因子	＜内在化／スポーツマン体型＞	12.78	(3.43)	13.01	(3.76)	12.86	(3.54)	10.24	(2.90)	10.06	(3.03)	10.18	(2.95)	11.40	(3.39)	11.36	(3.67)	11.39	(3.49)	性別 $F=142.1^{**}$

$^{**}p<.01$, $^{*}p<.05$

Note. SATAQ-3R＝Sociocultural Attitudes Towards Appearance Questionnaire-3 Revised

あったのに対し，女性の平均値は 28.69, 30.07, 23.37 であった）が，第 4 因子＜内在化／スポーツマン体型＞については女性（10.19）より男性（12.85）のほうが平均得点は高かった。しかし，インターネット利用時間の主効果および性別とインターネット利用時間の交互作用は 4 因子のすべてにおいて有意にはならなかった。したがって，インターネットの利用が見た目や外見に関する社会文化的基準の内在化に与える影響力は示されず，仮説は支持されなかった。

性別（男性・女性）×テレビ視聴時間（低群・高群）分散分析の結果，日本語版 SATAQ-3 R の 4 因子すべてにおいて性別の主効果が 1％水準で有意であり，先述の分析と同様の平均値のパターンであった。また，テレビ視聴時間の主効果が第 3 因子＜メディアによるプレッシャー＞を除く 3 因子得点において，5％水準（第 1 因子）あるいは 1％水準（第 2 因子と第 4 因子）で有意となった。テレビ視聴時間高群（平均値は第 1 因子＜内在化／TV 雑誌・比較＞で 27.17, 第 2 因子＜メディアによるプレッシャー＞で 29.11, 第 4 因子＜内在化／スポーツマン体型＞で 11.60）の方が，テレビ視聴時間低群（同様に，25.07, 27.18, 11.24）よりも，各因子得点の平均値が高かった。さらに，性別とテレビ視聴時間の交互作用が第 3 因子＜メディアによるプレッシャー＞において 5％水準で有意となった。女性ではテレビ視聴時間の単純主効果は有意でなかった（$F<1$；テレビ視聴時間高群の平均値が 23.28, 低群は 23.52）のに対し，男性ではテレビ視聴時間の単純主効果が 5％水準で有意となり（$F(1,874)=5.7$），テレビ視聴高群（16.85）のほうが低群（15.16）よりも平均値が高かった。これらの結果から，テレビの視聴に関しては仮説が支持されたといえる。つまり，男女ともに 1 日あたりのテレビの視聴時間が長い人は，視聴時間が短い人に比べ，メディアに映し出される俳優やタレント，モデル，スポーツ選手といった人々の影響を受けて痩身理想を内在化し，メディアの情報は自分の外見に関する重要な情報源であるという意識が高いことが示された。また，女性ではテレビ視聴時間の長短にかかわらずメディアの情報から自分の外見に関するプレッシャーを感じるのに対し，男性ではテレビの視聴時間が短い人は長い人と比べてそのようなプレッシャーを感じにくいという性差も示された。

性別（男性・女性）×定期的な雑誌購読（なし群・あり群）の分散分析の結果，日本語版 SATAQ-3 R の 4 因子すべてにおいて先述の分析と同様，性別の主効果が 1％水準で有意であった。また，第 4 因子＜内在化／スポーツマン体型＞を除いて，定期的な雑誌購読の有無の主効果が 1％水準で有意であった。雑誌を定期的に購読している群（平均値は，第 1 因子＜内在化／ TV 雑誌・比較＞で 27.76, 第 2 因子＜情報の重要性＞で 29.78, 第 3 因子＜メディアによるプレッシャー＞で 21.10）の方が，定期的に購読していない群（同様に，25.22, 27.22, 19.40）よりも，各因子得点の平均値が高かった。これらの結果から，雑誌の購読に関してもテレビの視聴と同様，仮説が支持されたといえる。男女ともに雑誌を定期的に購読している人は，購読していない人と比べて，メディアに映し出される人々の影響を受けて痩身理想を内在化し，メディアの情報は自分の外見に関する重要な情報源であるという意識が高く，メディアの情報から自分の外見についてプレッシャーを感じることが示された。

総合考察

研究 1 では，日本語版 SATAQ-3 R を作成し，その信頼性と妥当性を検討することを目的とした。まず因子分析により，日本語版 SATAQ-3 R の因子構造を確認した結果，オリジナルとは異なる 4 因子構造が確認された。また因子ごとに Cronbach の α 係数を算出したところ，$\alpha=.78$ から .93 といずれも十分な値であった。再検査信頼性についても，調査間の Pearson の積率相関係数は $r=.73$ から .84 といずれも許容範囲であった。なお，男女別で因子分析を行った結果，質的な性差はないことが確認された。よって，日本語版 SATAQ-3 R は原版とは異なる因子構造ではあるものの，女性だけではなく男性に対しても痩身理想の内在化やメディアから受ける影響の度合いなどを測定することができ，かつ十分な信頼性が示されたといえる。

次いで，構成概念妥当性を検討した結果，日本語版 SATAQ-3 R と痩身願望（EDI-91）との間に強い正の相関，体型不満感（EDI-91）との間にやや強い正の相関が認められた。先行研究（Thompson et al., 2004）と同様の結果であり，仮説 (a) および (b) は支持された。また，体重や食事への関心の強さ（EAT-26）と体型と外見へのこだわりの強さ（BSQ）と日本語版 SATAQ-3 R との間に正の相関が認められた。SATAQ ドイツ語版（Knauss et al., 2009）および SATAQ イタリア語版（Stefanile et al., 2011）作成時の妥当性検討と同様の結果であり，仮説 (c), (d) は支持された。さらに，外見が自分の人生に重要で日常生活にも影響を及ぼしていると考えている程度（外見スキーマ：JASI-R）や外見の変化，維持のために自己の体型をすることが必要であると考えている程度（ボディチェッキング：BCCS）と日本語版 SATAQ-3 R との間にも正の相関が認められた。外見スキーマはマ

スメディアによって伝えられる理想的なボディイメージを内在化しやすい傾向を表し，体型不満感などと関連があるとの指摘（Cash et al., 2004）に一致し，ボディチェッキングは体型不満感と密接な関連をもつ信念であり，体型および体重，食事への過剰なとらわれを反映しているという言及（安保他, 2012）とも整合しているといえ，仮説(d)および(e)は概ね支持されたといえる。以上のことから，提示された仮説はほぼ支持され，日本語版SATAQ-3Rは青年期男女の痩身理想の内在化を測定できる尺度として信頼性・妥当性を有していると判断できよう。

その一方で，第4因子＜内在化／スポーツマン体型＞については他の3因子とは異なる相関のパターンが示された。SATAQ中国語版の作成時（Jackson & Chen, 2010）の懸念事項と同じく，本研究の対象者もしくはわが国の男性にスポーツマン体型がどの程度理想とされているのか現時点では不明瞭であり，今後検討の余地があると考える。

研究2では，日本語版SATAQ-3Rとインターネットやテレビ，雑誌といったメディアの利用頻度との関連性について男女別に検討することを目的とした。男性より女性のほうが，メディアに映し出される人々の影響を受けて痩身理想を内在化し，メディアの情報は自分の外見に関する重要な情報源であるという意識が高く，メディアの情報から自分の外見についてプレッシャーを感じるという結果は，体型に関するメディア情報の影響がとりわけ女性に対して強力であるという先行研究（Hausenblas, Janelle, Gardner, & Focht, 2004）からも妥当な結果であろう。一方でスポーツマン体型への内在化は女性より男性のほうが平均得点が高く，男性の痩身を考えるにあたり重要な示唆を含む結果であると思われる。

また，メディアのうち，特にテレビと雑誌が痩身理想の内在化やメディアからの情報に対する重要性の認知，メディアから受けるプレッシャーの程度に大きく影響を及ぼす可能性が示された。この結果から，摂食障害の予防活動を学校ベースで行うことが効率的かつ効果的であるという指摘（Grave, 2003）もふまえ，子どもから大人への成長過程におけるメディアリテラシー教育の重要性が示唆される。

欧米では児童思春期の生徒を対象に，学校場面でメディアリテラシーに関する教育が摂食障害の予防プログラムとして実施されている。これは，マスメディアが提供する痩身を理想とする情報を認識し解釈を行い批判することができるように，メディアの内容に対する批判的評価を受け入れることを強化するアプローチ方法である（Levine, Piran, & Stoddard, 1999）。平均13歳の男女学生に対してメディアリテラシー教育による介入を行った結果，体型や体重，食への関心，食事制限，痩身理想の内在化などに減少がみられたことが報告されている（Wade, Davidson, & O'Dea, 2003 ; Wilksch et al., 2006）。また，介入の効果が2年後のフォローアップ時まで維持されていたという報告（Smolak & Levine, 2001）もなされている。以上をふまえて，わが国の摂食障害患者の増加を防ぐために痩身理想の内在化を適切にアセスメントし，学校教育のなかで実施可能なメディアリテラシー教育に焦点を当てた予防的介入を作成，検討していくことが望まれる。

また，本研究は横断データを用いており，痩身理想の内在化と食行動の問題や摂食障害との因果関係については明確化できていない。今後，メディアからの影響による痩身理想の内在化が極端な摂食や自己誘発性嘔吐などの食行動の問題とどのように関連するかを理解するためには時系列的な調査が必要であると思われる。

引用文献

安保恵理子・須賀千奈・根建金男　(2012). 外見スキーマを測定する尺度の開発および外見スキーマとボディチェッキング認知の関連性の検討　パーソナリティ研究, **20**, 155-166.（Ambo, E., Suga, T., & Nedate, K. (2012). Development of a Japanese version of the Appearance Schemas Inventory : Relationship between appearance schemas and body checking cognitions. *Japanese Journal of Personality*, **20**, 155-166.）

馬場安希・菅原健介　(2000). 女子青年における痩身願望についての研究　教育心理学研究, **48**, 267-274.（Baba, A., & Sugawara, K. (2000). Drive for thinness in adolescent women. *Japanese Journal of Educational Psychology*, **48**, 267-274.）

馬場謙一・坪井さとみ　(1993). EAT-26の有効性　厚生省特定疾患神経性食欲不振症調査研究班　平成4年度研究報告書, 80-86.（Baba, K., & Tsuboi, S.）

Barlett, C. P., Vowels, C. L., & Saucier, D. A. (2008). Meta-analyses of the effects of media images on men's body-image concerns. *Journal of Social and Clinical Psychology*, **27**, 279-310.

Bearman, S. K., Presnell, K., Martinez, E., & Stice,

E. (2006). The skinny on body dissatisfaction : A longitudinal study of adolescent girls and boys. *Journal of Youth and Adolescence*, **35**, 229-241.

Becker, A. E., Burwell, R. A., Gilman, S. E., Herzog, D. B., & Hamburg, P. (2002). Eating behaviours and attitudes following prolonged exposure to television among ethnic Fijian adolescent girls. *British Journal of Psychiatry*, **180**, 509-514.

Berel, S., & Irving, L. M. (1998). Media and disturbed eating : An analysis of media influence and implications for prevention. *Journal of Primary Prevention*, **18**, 415-430.

Calogero, R. M., Davis, W. N., & Thompson, J. K. (2004). The Sociocultural Attitudes Towards Appearance Questionnaire-3 (SATAQ-3) : Reliability and normative comparisons of eating disordered patients. *Body Image*, **1**, 193-198.

Cash, T. F., Melnyk, S. E., & Hrabosky, J. I. (2004). The assessment of body image investment : An extensive revision of the Appearance Schemas Inventory. *International Journal of Eating Disorders*, **35**, 305-316.

Cohane, G. H., & Pope, H. G. (2002). Body image in boys : A review of the literature. *International Journal of Eating Disorders*, **29**, 373-379.

Coughlin, J. W., & Kalodner, C. (2006). Media literacy as a prevention intervention for college women at low- or high-risk for eating disorders. *Body Image*, **3**, 35-43.

Durkin, S. J., & Paxton, S. J. (2002). Predictors of vulnerability to reduced body image satisfaction and psychological well-being in response to exposure to idealized female media images in adolescent girls. *Journal of Psychosomatic Research*, **52**, 995-1005.

Grave, R. D. (2003). School-based prevention programs for eating disorders : Achievements and opportunities. *Disease Management and Health Outcomes*, **11**, 579-593.

Hausenblas, H. A., Janelle, C. M., Gardner, R. E., & Focht, B. C. (2004). Viewing physique slides：Affective responses of woman at high and low drive for thinness. *Journal of Social and Clinical Psychology*, **23**, 45-60.

Heinberg, L. J., Thompson, J. K., & Stormer, S. (1995). Development and validation of the Sociocultural Attitudes Towards Appearance Questionnaire. *International Journal of Eating Disorders*, **17**, 81-89.

Hogan, M. J., & Strasburger, V. C. (2008). Body image, eating disorders, and the media. *Adolescent Medicine : State of the Art Reviews*, **19**, 521-546.

法田裕美子・矢澤美香子・根建金男 (2007). 日本語版 Body Checking Cognition Scale 開発の試み 第33回日本行動療法学会大会発表論文集 (Houda, Y., Yazawa, M., & Nedate, K.)

生野照子 (2001). 摂食障害の予防教育を 学校保健フォーラム, **5**, 9.

Jackson, T., & Chen, H. (2010). Factor structure of the Sociocultural Attitudes Towards Appearance Questionnaire-3 (SATAQ-3) among adolescent boys in China. *Body Image*, **7**, 349-355.

Karazsia, B. T., & Crowther, J. H. (2008). Psychological and behavioral correlates of the SATAQ-3 with males. *Body Image*, **5**, 109-115.

Knauss, C., Paxton, S. J., & Alsaker, F. D. (2009). Validation of the Garman version of the Sociocultural Attitudes Towards Appearance Questionnaire-3 (SATAQ-G). *Body Image*, **6**, 113-120.

Levine, M. P., Piran, N., & Stoddard, C. (1999). Mission more probable : Media literacy, activism, and advocacy in the prevention of eating disorders. In N. Piran, M. P. Levine, & C. Steiner-Adair (Eds.), *Preventing eating disorders : A handbook of interventions and special challenges* (pp. 3-25). Philadelphia, PA : Brunner/Mazel.

Madanat, H. N., Hawks, S. R., & Brown, R. B. (2006). Validation of the Sociocultural Attitudes Towards Appearance Questionnaire-3 among a random sample of Jordanian women. *Body Image*, **3**, 421-425.

前川浩子 (2005). 青年期女子の体重・体型へのこだわりに影響を及ぼす要因―親の養育行動と社会的要因からの検討― パーソナリティ研究, **13**, 129-142. (Maekawa, H. (2005). Weight and body shape concerns in young women : A model of parental behavior and social environment. *Japanese Journal of Personality*, **13**, 129-142.)

McCabe, M. P., & Ricciardelli, L. A. (2004). Body

image dissatisfaction among males across the lifespan : A review of past literature. *Journal of Psychosomatic Research*, **56**, 675-685.

米良貴嗣・岡　孝和・宮田正和・兒玉直樹・森　秀和・玉川葉子・武永雅樹・林田草太・橋本朋子・辻　貞俊 (2011). Body Shape Questionnaire と Body Attitudes Questionnaire 日本語版の作成と，それを用いた日本人摂食障害患者の身体イメージの評価 心身医学, **51**, 151-161. (Mera, T., Oka, T., Miyata, M., Kodama, N., Mori, H., Tamagawa, Y., Takenaga, M., Hayashida, S., Hashimoto, T., & Tsuji, S. (2012). Evaluation of body image disturbance in Japanese eating disorder patients by the body shape questionnaire and the Body Attitudes Questionnaire. *Japanese Society of Psychosomatic Medicine*, **51**, 151-161.)

小澤夏紀・冨家直明・宮野秀市・小山徹平・川上祐佳里・坂野雄二 (2005). 女性誌の暴露が食行動異常に及ぼす影響 心身医学, **45**, 521-529. (Ozawa, N., Tomiie, T., Miyano, S., Koyama, T., Kawakami, Y., & Sakano, Y. (2005). Influence of female magazine exposure on eating disturbance. *Japanese Society of Psychosomatic Medicine*, **45**, 521-529.)

Raich, R. M., Portell, M., & Peláez-Fernandez, M. A. (2010). Evaluation of a school-based programme of universal eating disorders prevention : Is it more effective in girls at risk? *European Eating Disorders Review*, **18**, 49-57.

Ricciardelli, L. A., & McCabe, M. P. (2004). A biopsychosocial model of disordered eating and pursuit of muscularity in adolescent boys. *Psychological Bulletin*, **130**, 179-205.

Rousseau, A., Valls, M., & Chabrol, H. (2010). Validation of the French version of the Sociocultural Attitudes Towards Appearance Scale-3 (SATAQ-3). *Encephale*, **36**, 270-276.

Sands, E. R., & Weadle, J. (2003). Internalization of ideal body shapes in 9-12-year-old girls. *International Journal of Eating Disorders*, **33**, 193-204.

佐藤由佳利・土屋聡子 (2010). 高校生の摂食障害傾向―その性差について― 心身医学, **50**, 321-326. (Sato, Y., & Tsuchiya, S. (2010). Tendency of eating disorders in high-school : For gender difference. *Japanese Society of Psychosomatic Medicine*, **50**, 321-326.)

志村　翠・堀江はるみ・熊野宏昭・久保木富房・末松弘行・坂野雄二 (1994). 日本語版 Eating Disorder Inventory-91 の因子構造について 行動療法研究, **20**, 62-69. (Shimura, M., Horie, H., Kumano. H., Kuboki, T., Suematsu, H., & Sakano, Y. (1994). Factor structure analysis of the Japanese version of the eating disorder inventory-91. *Japanese Journal of Behavior Therapy*, **20**, 62-69.)

Smolak, L., & Levine, M. P. (2001). A two-year follow-up of a primary prevention program for negative body image and unhealthy weight regulation. *Eating Disorders*, **9**, 313-325.

Smolak, L., Levine, M. P., & Thompson, J. K. (2001). The use of the Sociocultural Attitudes Towards Appearance Questionnaire with middle school boys and girls. *International Journal of Eating Disorders*, **29**, 216-223.

Stefanile, C., Matera, C., Nerini, A., & Pisani, E. (2011). Validation of an Italian version of the Sociocultural Attitudes Towards Appearance Questionnaire-3 (SATAQ-3) on adolescent girls. *Body Image*, **8**, 432-436.

Stice, E., & Bearman, S. K. (2001). Body-image and eating disturbances prospectively predict increases in depressive symptoms in adolescent girls : A growth curve analysis. *Developmental Psychology*, **37**, 397-607.

Stice, E., & Shaw, H. E. (2002). Role of body dissatisfaction in the onset and maintenance of eating pathology : A synthesis of research findings. *Journal of Psychosomatic Research*, **53**, 985-993.

Stice, E., & Whitenton, K. (2002). Risk factors for body dissatisfaction in adolescent girls : A longitudinal investigation. *Developmental Psychology*, **38**, 669-678.

Swami, V. (2006). Female physical attractiveness and body image disorders in Malaysia. *Malaysian Journal of Psychiatry*, **14**, 3-7.

Swami, V. (2009). An examination of the factor structure of the Sociocultural Attitudes Towards Appearance Questionnaire-3 (SATAQ-3) in

Malaysia. *Body Image*, **6**, 129-132.

Sypeck, M. F., Gray, J. J., & Ahrens, A. H. (2004). No longer just a pretty face : Fashion magazines' depictions of ideal female beauty from 1959 to 1999. *International Journal of Eating Disorders*, **36**, 342-347.

高橋英子・川端朋枝・山田正二・宮下洋子・大浦麻恵・山田恵子 (2004). 男子学生（高校生, 専門学校生, 大学生）の痩せ願望の有無による体型評価と体型誤認 札幌医科大学保健医療学部紀要, **7**, 23-29. (Takahashi, H., Kawabata, T., Yamada, S., Miyashita, Y., Ohura, A., & Yamada, K. (2004). Perception and misconception about one's own physique of high school, vocational school and university male students desiring weight loss. *Bulletin of Sapporo Medical University School of Health Sciences*, **7**, 23-29.)

Thompson, J. K., & Heinberg, L. J. (1999). The media's influence on body image disturbance and eating disorders : We've reviled them, now can we rehabilitate them? *Journal of Social Issues*, **55**, 339-353.

Thompson, J. K., & Stice, E. (2001). Thin-ideal internalization : Mounting evidence for a new risk factor for body image disturbance and eating pathology. *Current Directions in Psychological Science*, **10**, 181-183.

Thompson, J. K., van den Berg, P. A., Keery, H., Williams, R., Shroff, H., Haselhuhn, G. I., & Boroughs, M. (2000). A revision and extension of the Sociocultural Attitudes Towards Appearance Questionnaire. *Presented at the 9th Annual Conference of the Academy of Eating Disorders*, New York.

Thompson, J. K., van den Berg, P., Roehrig, M., Guarda, A. S., & Heinberg, L. J. (2004). The Sociocultural Attitudes Towards Appearance Scale-3 (SATAQ-3) : Development and validation. *International Journal of Eating Disorders*, **35**, 293-304.

浦上涼子・小島弥生・沢宮容子 (2013). 男女青年における痩身願望の内在化と痩身願望との関係についての検討 教育心理学研究, **61**, 146-157. (Uragami, R., Kojima, Y., & Sawamiya, Y. (2013). Relation between thin-ideal internalization and drive for thinness in male and female adolescents. *Japanese Journal of Educational Psychology*, **61**, 146-157.)

浦上涼子・小島弥生・沢宮容子・坂野雄二 (2009). 男子青年における痩身願望についての研究 教育心理学研究, **57**, 263-273. (Uragami, R., Kojima, Y., Sawamiya, Y., & Sakano, Y. (2009). Drive for thinness in adolescent males. *Japanese Journal of Educational Psychology*, **57**, 263-273.)

Wade, T. D., Davidson, S., & O'Dea, J. A. (2003). A preliminary controlled evaluation of a school-based media literacy program and self-esteem program for reducing eating disorder risk factors. *International Journal of Eating Disorders*, **33**, 371-383.

Wilksch, S. M., Tiggemann, M., & Wade, T. D. (2006). Impact of interactive school-based media literacy lessons for reducing internalization of media ideals in young adolescent girls and boys. *International Journal of Eating Disorders*, **39**, 385-393.

Wilksch, S. M., & Wade, T. P. (2009). Reduction of shape and weight concern in young adolescents : A 30-month controlled evaluation of a media literacy program. *Journal of the American Academy of Child and Adolescent Psychiatry*, **48**, 652-661.

Wright, C., & Pritchard, M. E. (2009). An examination of the relation of gender, mass media influence, and loneliness to disordered eating among college students. *Eating and Weight Disorders*, **14**, 144-147.

山宮裕子・島井哲志 (2012). 日本版 Sociocultural Attitudes Towards Appearance Questionnaire-3 短縮版 (SATAQ-3JS) の開発と信頼性・妥当性の検討 心身医学, **52**, 54-63. (Yamamiya, Y., & Shimai, S. (2012). Development of the Sociocultural Attitudes Towards Appearance Questionnaire-3 Japanese short version (SATAQ-3JS) and establishment of its reliability and validity. *Japanese Society of Psychosomatic Medicine*, **52**, 54-63.)

Yang, C. F., Gray, P., & Pope, H. G., Jr. (2005). Male body image in Taiwan versus the West : Yanggang Zhiqi meets the Adonis complex.

American Journal of Psychiatry, **162**, 263-269.

(2014.5.21 受稿, '15.1.26 受理)

Relation Between Media Use and Thin-Ideal Internalization : University Undergraduates

Ryoko Uragami (University of Tokyo), Yayoi Kojima (Saitama Gakuen University) and Yoko Sawamiya (University of Tsukuba)

Japanese Journal of Educational Psychology, 2015, 63, 309—322

The aims of the present study were to construct a Japanese version of the Sociocultural Attitudes Towards Appearance Questionnaire-3 Revised (SATAQ-3R), which was developed by Thompson, van den Berg, Keery, Williams, Shroff, Haselhuhn, & Boroughs (2000), and examine the relation between media use and thin-ideal internalization in Japan. In Study 1, university seniors (total $N=1,054$ in 4 samples) completed a 29-item questionnaire. Factor analysis revealed 4 factors, which were selected for the Japanese version of the Sociocultural Attitudes Towards Appearance Questionnaire-3 Revised. Validity of the instrument was confirmed, and its internal consistency was checked. Study 2, which used the scores on the Japanese instrument of most of the same participants, examined the relation between the frequency of use of media (such as Internet, television, and magazines) and those scores. The results indicated that the females who were influenced by the media had a more internalized thin-ideal than the males did. However, the males had a more internalized athlete-ideal than the females did. These results suggest that media literacy education may be useful in preventing an increase in eating disorders in Japan.

Key Words : media use, thin-ideal internalization, Sociocultural Attitudes Towards Appearance Questionnaire-3 Revised, media literacy, male and female university undergraduates